

静岡理工科大学
学長
野口博



「やらまいか精神」のもと、
独自のPBLを通して、
地域に貢献する技術者を育成する

文部科学省の「大学における実践的な技術者教育のあり方に関する協力者会議」の委員を務めていた際、日本を代表するメーカーの経営者からよく「即戦力が欲しい」と言われました。

しかし、大学は職業教育だけを行う場ではありません。社会環境の変化が著しい今日、専門知識だけでなく、「社会人基礎力」が必要です。そこで静岡理工科大学では、専門性と人間力としての社会人基礎力を兼ね備えた技術者育成のために、独自のキャリア形成教育を実施しています。具体的には、職業人としての教養を育む「キャリア形成プログラム」。未知のテーマに挑む自主性・創造性を養う

「やらまいか教育プログラム」。知識と業務遂行能力を磨く「実学的専門教育」。そして、学生がPDCAの中で成長を実感する「キャリア・ポートフォリオ」の4つの取り組みを用意しています。

特筆すべきは、「やらまいか教育プログラム」の中の「創造・発見」という科目です。1年次の必修科目であり、学生は興味のあるテーマについて自由に創作・研究活動を行います。教員は知識を伝えるのではなく、対話を通して新しい課題を発見し、思索を深める手助けをします。まさに本学独自のPBL（課題探求型授業）です。

「社会人基礎力」育成のため、ほかにも数多くの挑戦をしています。例

えば「learn@SIST」というラーニングを開始しました。教員があらかじめネット上に授業内容を公開し、学生は事前にそれを見て予習することで、授業では対話と課題探求により多くの時間を費やせるようになります。現在、全講義での導入を進めています。

地域社会との連携も重要なテーマです。幸い、本学が位置する静岡県西部は自動車産業を中心とした、ものづくりの地域であり「何事も一緒にやってみよう」という「やらまいか」精神が息づく地域です。学生には、自ら考え、失敗を恐れずに挑戦する姿勢を身につけると同時に、ものづくりだけではなく、発想力や企画力で物事を最後までやりぬく「ことづくり」力を兼ね備えた技術者に育ってほしいと願っています。

ほかにも海外の研究機関との連携や、学内の研究テーマの可視化、研究者ネットワークの構築、学生の能力・才能を最大限に引き出す「面倒見の良い教育」の確立など、本学の改革は着々と進んでいます。「小さくてもぎらりと輝く大学」として、地域社会に貢献する技術者を養成していきます。

【学長プロフィール】のぐち・ひろし●1946年生まれ。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻博士課程修了。工学博士。東京大学工学部助手、千葉大学工学部教授、同工学部長、同大学院工学研究科長などを歴任。工学院大学教育開発センター主幹・特任教授、千葉大学名誉教授、芝浦工業大学SIT総合研究所客員教授。2014年4月より現職。

【大学プロフィール】1991年開学。理工学部(機械工学科・電気電子工学科・物質生命科学科)、総合情報学部(コンピュータシステム学科・人間情報デザイン学科)の2学部5学科。